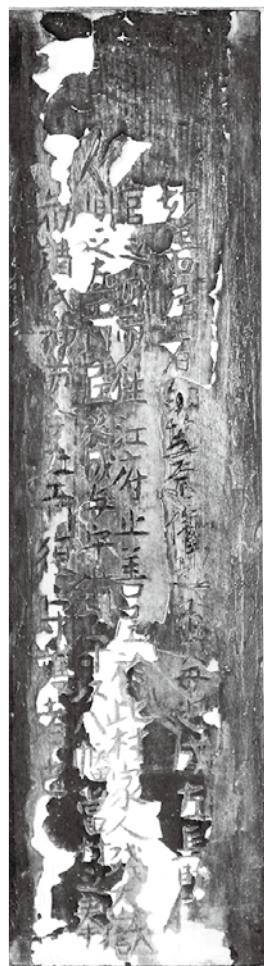


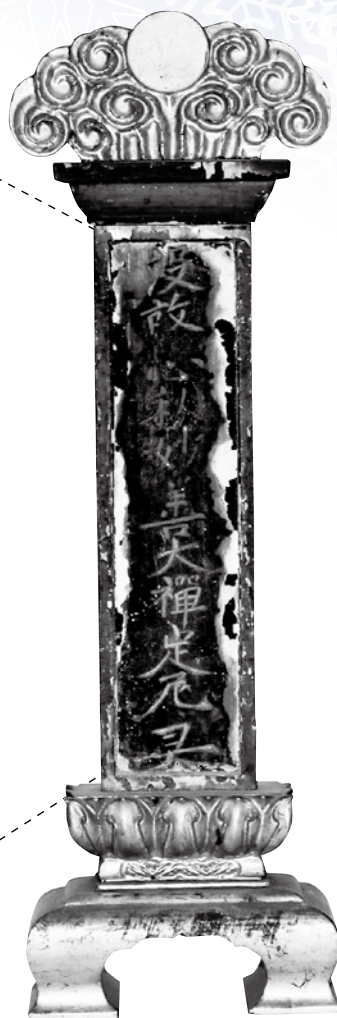
西尾市史だより

N I S H I O

第4号 2018.2.1



同裏面の銘文 (拡大)



妙善寺「心秋妙善大禪定尼」位牌表面

資料紹介

東幡豆町 妙善寺・ 大嶽家資料

平成二十九年十月十九日(木)に、東幡豆町の妙善寺と大嶽家において、小笠原権之丞の母親である「心秋妙善大禪定尼」の位牌の調査をおこないました。

小笠原権之丞は、幡豆小笠原氏の一族であり、父親の越中守正吉は、徳川家康の側近として海軍問題を担当し、十七世紀初期には、上総国富津の領主となった宗家(安芸守家)に代わり、徳川将軍家から幡豆領(寺部など)の支配を認められていました。

結局、小笠原権之丞は慶長十七(一六二二)年にキリスト教信仰のために改易されて、幡豆領は解体しましたが、妙善寺や大嶽家は、それでも妙善尼(正吉室・権之丞母)の位牌を保持していたことになります。旧幡豆領域における自己のアイデンティティとして、妙善尼との関係をきわめて重視していたのでしょう。

とくに妙善寺所蔵の位牌裏面には、大嶽家と妙善尼の関係を示す銘文が彫り込まれていました。

「心秋妙善大禪定尼」位牌裏面(写真上左)



西尾市

(銘文)

妙善尼者小笠原権之丞母也、成左馬助仕官之身而往江府、止善尼於此村、家人残大嶽間之左衛門、尼之成与守、鎮守以八幡当村之奉勸請氏神、而今左衛門復守護者也、この銘文によると、小笠原権之丞(当初は「左馬助」)は、家督相続後に幡豆領から江戸に出府して、將軍家に奉公することになったものの、母親の妙善尼は幡豆領に引き続き居住したため、「家人大嶽間之左衛門」を妙善尼の守役に配しています。さらに権之丞(または妙善尼か)は、氏神として八幡社を幡豆領に勧請しており、権之丞の没落後も、大嶽間之左衛門によつて同社は維持されている、という由緒が語られています。

おそらく、小笠原権之丞にとつて、大嶽間之左衛門は父正吉の代から仕えており、母妙善尼の守役を託しうるほどに、信頼の厚い家臣だったのでしょう。あるいは、権之丞は將軍家旗本としての公的活動に専念するために、幡豆領の統治を万全とすることを意図して、妙善尼を自己の代理人に位置付けつつ、大嶽間之左衛門に母親の世話や所領経営の

差配を託した、というのが実態だったのかもしれない。

また、銘文の内容から、小笠原権之丞が改易された後、大嶽間之左衛門が連座を免れ、さらに八幡社の維持を担うほどの実力を保っていた状況を読み取ることもできます。徳川將軍家はキリスト教信仰に深入りした権之丞を処罰しつつも、幡豆郡東部地域の混乱を抑制しようとして、大嶽家をあえて処分の対象から外し、以後も旧幡豆領の名士として存立し続けることを容認したのではないのでしょうか。

また、大嶽家の位牌調査では、天保十二(一八四一)年七月九日に、戸田忠温(下野国宇都宮藩主、当時は寺社奉行、後に老中)の江戸屋敷で病死した佐与太(法名「勸学善理信士」)という人物が歴代に存在したことも判明しました。江戸に出て、宇都宮戸田氏に奉公していたものとみられます。

「勸学善理信士」位牌裏面(写真下・左)

(銘文)

天保十二丑七月九日、江戸筋違内戸田日向守殿屋敷而病死、佐助息

俗名大嶽佐与太事行年三十一才

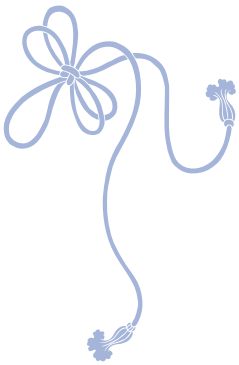
宇都宮藩主の戸田氏は、戦国時代に三河国大津(現・豊橋市老津町)を拠点とした家であつて、十七世紀前期には、三河国田原藩主として存立していました。おそらく、その縁によつて、佐与太は宇都宮藩邸の奉公人として採用されることになったと推測されます。

大津戸田氏は十七世紀後半から数度の転封を経験して、宇都宮に定着しましたが、三河地域との繋がりもある程度維持していたことを示す傍証となりえるかもしれません。

さらに妙善尼の位牌と合わせて、西尾市域における中世(戦国期)・近世(江戸期)の連続性が窺える資料、と位置づけることもできるはずです。

中世部会

執筆員 小川 雄おがわ ゆう



同右裏面の銘文(拡大)



大嶽家「勸学善理信士」位牌



大嶽家「心秋妙善大禅定尼」位牌

こちら近世部会で

近世部会 編集委員

池内 敏

近世部会は資料編と本編を刊行すべく準備を進めており、当面は資料編のための史資料収集に追われています。資料編は、領主、地方、町方、寺社および文化の五つの柱を立て、委員ごとに分担して掲載史料の選択をしているところです。扱う時期は大雑把に言えば江戸時代。その始まりと終わりを一義的に求めるのは難しい問題ですが、徳川將軍と諸大名とのあいだで結ばれた主従関係を軸に国家のあり方が規定された時期だとすれば、これまた大雑把に西尾藩が存在した時代と考えれば良いのかも知れません。現在の西尾地域が、西尾藩の存在した時代にはどのようながたをしていたのだろうか、そしてそのころの人々の営みが現在の西尾市民の生活や文化とどのように関わっているのだろうか、こうしたことを具体的に明らかにすることが『西尾市史』近世編に与えられた課題といえるでしょうか。

近世部会は、いま年に二、三回ほど、西尾市岩瀬文庫の一室に委員が集まって開催されています。その部屋は、窓の開いた側を除く三つの壁面に天井まで届く書棚が作り付けられていて、西尾市史にかかわる書籍と史料で埋め尽くされています。そのうえさらに書棚の前には史資料の詰まった小さなコンテナなどの段ボール箱だのが積み上げられていて、部屋に入る者を威圧します。しかし、この圧迫感はいささか心地よいものです。西尾駅で降りてから、古本屋をのぞき、和菓子屋さんをのぞき、いくつもの古刹を眺め、路地を歩いて岩瀬文庫にたどり着きます。そしてくだんの部屋にはいるから、そのときには「さあ、西尾市史をやるぞ」という意気込みが高まります。が、ことはそれほどには容易ではありません。西尾の町並みを歩くと江戸時代がすぐそこにあるかのような錯覚を覚えますが、それはやはり現代的な感覚を脱し切れていない思い込みなのであって、江戸時代の人々にとつての常識はなかなかずとんと落ちてきません。たとえば西尾藩主の支配。十八世紀後半から幕末維新时期まで在城した大給松平氏の場合、西尾地域の

本領（二万三〇〇〇石）よりも収入の多い飛地（三万七〇〇〇石）を越前国内にもつていて、当然にそこでも支配を行っています。また、大給松平氏は西尾藩の前は出羽山形藩主でしたし、さらにその前は下総佐倉藩、肥前唐津藩、志摩鳥羽藩、伊勢亀山藩主、山城淀藩主、上野館林藩主……と、まあ、再々転封を繰り返しています。その家臣団構成を見ると、それぞれの転封先で取り立てた武士たちがおおよそ似たような比率で現れます。となると、ひとくちに西尾藩主といっても、もとは出身を様々に異にする武士たちの集まりだったということになります。一方で、西尾藩本領の地方、町方で暮らす人々は、ひよっとすると先祖代々西尾住まいっていうことかもしれないし、そうなると地元に対する愛着の度合いは武家と民衆とでは濃淡があったかも知れません。そうしたときに「支配」が支配者に都合良く人々のあいだに浸透するためには、どのような工夫がなされたのでしょうか。



編さん室での調査のようす

どうやら、西尾地域の江戸時代を明らかにするためには、西尾市だけを眺めていたのでは完結しないようなのです。少し視野を広げて、たとえば越前の飛地支配なんかも調査しながら進めて新しい発見をしながら前進していこうと思います。そんなこんなを試行錯誤も、笑顔が優しく厳しい事務局の皆さんの奮闘によつて支えられています。ふだんは自宅や自分の本務先で西尾藩のことをぼーっと空想しながら、西尾市岩瀬文庫の一室でシャキッと瞬間をいつも楽しみにしています。この部屋から西尾市民の皆さんのための新しい西尾藩像をお届けできたらな、と思います。

調査報告

自然部会中間報告会

これまでの調査成果や活動の新たな発見、知見などを発表する中間報告会を実施しました。

- ・日時…平成29年10月21日(土)
午後1時30分～4時15分
- ・場所…西尾いきものふれあいの
里ネイチャーセンター
- ・参加者…32名



報告会のように

- ・報告者及び報告内容
- 地形・地質班 執筆員 内田義和うちだ よしかず
- 市域と関連する地域の地層、岩石、化石、断層などを詳しく観察しており、八ツ面山のきらら(雲母)採掘跡は

ベグマタイト脈の方向と一致していることや佐久島の化石を再鑑定していること、平野部以外の全域で断層を観察し、山間部では深溝断層と同方向の断層が顕著であることなどを報告しました。

哺乳類班 執筆員 金森正臣かなもり まさみち
交通事故遺骸や目撃情報、赤外線センサーによる自動撮影カメラを駆使した調査をしており、近年ではアライグマ、ハクビシン、ヌートリアなどの外来種が増加しているため、その分布を中心に報告しました。

鳥類班 執筆員 高橋伸夫たけはし のぶお
これまで観察記録のなかった佐久島などの島嶼部分を中心に調査をしており、市内では佐久島しかみられないウミウや近年佐久島で越冬が確認されたミヤコドリなどについて報告しました。

両生類・ハ虫類班 執筆員 島田知彦しまだ ともひこ
田んぼのカエルの鳴き声調査や市民アンケートによる市域の両生・ハ虫類に関する情報を集めており、市内のカエルの分布と、明治用水などカエルの分布の背景にある要因について報告しました。

魚類班 執筆員 地村佳純ぢむら よしずみ
河川や海域で採集による調査を行っ

ており、これまでの調査で54種類の淡水魚と48種類の海水魚を確認しているが、淡水魚のなかにはトウカイヨシノボリなど多くの絶滅危惧種も含まれていることや今年名古屋城外堀で捕獲された外来種のアリゲーターガーが以前市内の矢作古川下流域でも捕獲されたことなどを報告しました。

昆虫班 特別執筆員 大草伸治おおくさ しんじ
糖蜜を樹皮などに塗付して昆虫を誘引する糖蜜調査や夜間に発電機により電灯を点灯して夜行性昆虫を誘引する夜間調査など、様々な方法で調査をしております。これまでにチョウ、ガ、コウチュウ、ハチ、カメムシなどを中心に128科740種以上を記録し、そのなかでタケクマバチ(外来種)、キモンホソバノメイガ(外来種)、リュウキュウムラサキ(移動種)など多くの昆虫を紹介しました。

クモ班 執筆員 緒方清人おひなた きよひと
市内各地で片手に捕虫網を持ち、枝の下にあてがい、片手に持った棒で枝葉を連続で叩くビーティングやザルにかき集めた落ち葉を入れて、布の上等で数回振り動かし、ザルの目から落とすシフティングなどの方



報告会のように(質疑応答)

法により採集調査をしており、これまでに38科262種を確認し、なかでも県下初となるエンマグモ科シマミヤグモを梶島で確認したことなどを報告しました。

貝類・無脊椎動物班 執筆員 川瀬基弘かわせ きちひろ
海の貝をはじめ、タニシなどの淡水貝やカタツムリなどの陸貝等軟体動物(貝類)およびウニやクラゲ等海岸無脊椎動物の調査をしており、県指定天然記念物のミカワギセルや希少種のウスバシャミセンガイ、県初記録種の佐久島で発見されたエダウミウシなどを紹介しました。

参加者は熱心に聞き入り、報告後には多くの質問が寄せられました。

主な活動記録

(平成29年4月～30年1月現在)

● 編さん委員会 4月12日

● 編集委員会 5月27日・1月14日

● 考古部会

6月11日・12月16日

● 図面作成作業

入稿用の遺物実測作業、発掘図面等トレース作業

● 調査

4・5月

鳥羽神宮寺跡調査(鳥羽町)

4月～12月

華蔵寺・花岳寺(吉良町岡山)

ほか墓石調査

4月～12月

枯木宮貝塚出土品調査(西尾市資料館)

5・6月

善光寺沢南古墳発掘調査整理作業

6・11月

岡島遺跡出土品調査(三和小学校)

11月

住崎1号墳(下羽角町)調査

● 古代・中世部会

● 部会

8月26日(中世)

● 調査

8月

茨城県立歴史館

10月19日

国立公文書館内閣文庫

10月19日

大嶽家(東幡豆町)文書

1月5日

妙善寺(東幡豆町)

4月

前田育徳会

● 研究委託

4月

東京大学史料編纂所



妙善寺位牌調査のようす

● 近世部会

● 部会

6月11日・11月12日

● 調査

7月

杉浦家(一色町)文書

10月

東京都個人宅 資料調査

● 寄託・寄贈文書整理

4月～1月

のべ63回 田代家(馬場町)文書、厳西寺(今川町)文書、瀨門神社(吉良町瀬戸)文書、願成寺(巨海町)文書、正顕寺(貝吹町)文書、浄願寺(中畑町)文書ほか

● 近代・現代部会

● 部会

7月2日・11月25日

● 調査

4月8日

鳥山利平家文書調査

8月10日

愛知県公文書館調査

10月11日

西尾商工会議所資料調査

● 寄託・寄贈文書整理

4月～1月

のべ21回 矢島貞廉家(錦城町)文書、荻原村文書、諏訪神社文書、田代家文書、商工会議所文書、倉地家(鳥羽町)文書ほか

● 近代新聞(『新愛知』)調査 名古屋市鶴舞中央図書館

4月～12月

のべ64回

● 自然部会

● 部会

5月31日

● 調査

市内の地質・植物・動物(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・軟体動物・昆虫・蜘蛛など)

4月 のべ33回

5月 のべ39回

6月 のべ20回

7月 のべ13回

8月 のべ15回

9月 のべ23回

10月 のべ9回

11月 のべ2回

12月 のべ13回

● 中間報告会

10月21日

● 中間報告展(パネル展)

9月13日～10月8日	西尾市岩瀬文庫
10月14日～31日	西尾いきものふれあいの里
11月8日～29日	西尾市役所
1月10日～31日	西尾市幡豆いきいきセン ター

● 美術工芸・建造物部会

● 調査

4月18日	真珠院(吉良町駿馬)	建造物
5月19日	岩瀬文庫寄託絵画	
6月6日	花岳寺(吉良町岡山)	絵画
7月14日	祇園祭御旅所・中町大屋形・伊文神社(伊文町) 義倉蔵	建造物
8月4日	真珠院(吉良町駿馬)	絵画
9月11日	源徳寺(吉良町上横須賀)	絵画
9月26日	山内神社(東幡豆町)・上畑社(同)	建造物
11月13日・14日	旧糟谷山林事務所(三重県紀北町)	建造物
11月21日・27日・28日	幡頭神社(吉良町宮崎)	建造物
11月30日	瀬門神社(吉良町瀬戸)	旧糟
12月11日	谷邸(吉良町荻原)	建造物
12月18日	梶川医院(鳥羽町)	建造物
	安楽寺(小島町)	絵画



中町の大屋形調査のようす

民俗部会

● 部会

● 調査

6月3日・9月2日・12月9日	
4月2日・29日・7月9日・12月2日	山禅定調査
4月8日・7月8日・9月6日・12月1日	民具調査
4月9日	入浜式塩田についての聞き取り
4月10日から延べ42日	市内現地踏査
4月16日	富好神社祭礼
5月6日・7日・7月16日・17日	堤通手永御田扇祭り
5月13日・8月4日・16日・12月3日	秋葉信仰調査
5月25日	吉良地区に関する地元協力者の聞き取り
5月27日・28日	廻国供養塔踏査(西浅井町)
5月28日・7月25日・30日・8月6日・19日・20日・26日・27日・28日	一色大提灯祭り
7月12日	佐久島津島神社祭礼
7月16日・17日	一色天王祭り
7月22日	室天王祭り
8月14日	貝吹のかぎ万灯
8月15日・18日	米津の川まつり
9月9日・16日	一色地区に関する地元協力者の聞き取り
10月4日	佐久島白山十五夜祭り
10月8日	彦田神社(東幡豆町)祭礼

10月14日

山内神社(東幡豆町)

10月17日

吉田神社(吉良町吉田) 祭礼

10月18日

佐久島八剣神社祭礼

10月21日

白山信仰調査

10月22日

瀬門神社(吉良町瀬戸)

11月11日

志葉都神社(吉良町津平) 祭礼

11月11日

志葉都神社祭礼

一色の養鰻業について聞き取り

調査にご協力いただいた皆さま、
情報をお寄せいただいた方々へ
心より感謝を申し上げます。





展示解説のようす

また、9月16日には担当学芸員による展示解説を行いました。

これまでの市史編さん事業の成果の一部を市民の皆さまにご紹介する特別展「新発見。新知見。」を昨年に引き続き開催し、市内外から六四六二人にご来場いただきました。

会場では、紙面でも大きく取り上げられ話題をよんだ、幕末の当地方において活字印刷が行われていたことを示す満国寺（二色町味浜）の木活字をはじめ、国の重要無形民俗文化財「鳥羽の火祭り」の舞台である鳥羽神明社境内で発見された古代寺院の遺跡から出土した軒平瓦など21の新発見や新知見を展示しました。

岩瀬文庫特別展新発見。新知見。 ～新編西尾市史中間報告展Ⅱ～

会期 平成29年9月9日（土）～11月12日（日）
会場 西尾市岩瀬文庫 企画展示室



展示図録1冊500円で
好評発売中

特別講座「市史編さんの現場からⅡ」

日時 平成29年10月1日（日）
会場 西尾市岩瀬文庫 地階研修ホール

- 1 「年輪から国宝金蓮寺弥陀堂の年代を読む」
光谷拓実氏（奈良文化財研究所客員研究員）
- 2 「佐久島の弁財天坐像について」 見田隆鑑氏
（相山女学園大学准教授／美術工芸・建造物部会執筆員）

特別展会期中には、市史編さんに関わる講演会も開催しました。

最初に光谷氏が、国宝金蓮寺弥陀堂の年輪年代調査について、年輪のサンプルを持参され測定方法などを示しながら丁寧に解説しました。金蓮寺弥陀堂の建築年代は従来建築様式から鎌倉時代中期以降と考えられているが、年輪年代法の結果では二五〇年を下ることはなく、鎌倉時代前期の可能性がある、との見解が示されました。

次に、見田氏が、佐久島弁財天坐像と十五童子

像の調査成果について、図像的な特徴や、像内の墨書から応永十七（一四一〇）年の制作と確認できること、台座の墨書から大永七（一五二七）年に佐久島の上層百姓や幡豆小笠原氏が関与して修理されたことなどを解説しました。

両氏に講演いただいた内容の詳細については、『新編西尾市史研究』第三号（既刊）に掲載していますので、ぜひご購読ください。



講演のようす



見田隆鑑氏



光谷拓実氏



刊行物のご案内

刊行
予定

『新編西尾市史研究』第四号

A4判 平成三十年四月上旬刊行予定

ただいま編集集中！

市史編さんの過程の調査・研究の成果を
いち早くご紹介します。

(内容) 「『兵範記』・同紙背文書に見え

る西三河の荘園の基礎的研究―三河国幡豆
郡吉良荘、碧海郡志貴荘・碧海荘を中心
に―」「吉良家日記」関連史料の翻刻と紹
介―その一―」「海の古代寺院―寺部堂前
遺跡(寺部廃寺)出土の簾状文軒平瓦を中
心に―」「作品研究 地藏菩薩立像(個人
蔵)」「西尾市の地質―臨海部及び三河湾
の島々―」(予定)

岩瀬文庫特別展『新発見。新

既刊

知見。『新編西尾市史中間報

告展Ⅱ』図録(7頁参照)

A4判 23頁 500円

既刊

『新編西尾市史研究』第三号

A4判 110頁 700円

既刊

『新編西尾市史研究』第二号

A4判 76頁 500円

いずれも岩瀬文庫休憩室で販売中

資料や情報を

お待ちしています。

西尾の歴史や文化、風土に関する資料がありま
したら、お知らせください。今後の市史編さん活
動に役立てます。

・古文書や古い日記など

・戦前の市内で刊行された雑誌・文集

自然調査にご協力ください。

(1) 自然部会の専門委員が、市内の動植物・
地質などの調査を実施しています。「調査中」の
赤い腕章を付けていますので、ご理解とご協力を
お願いします。

(2) 市内のヒキガエル・イモリ・タケクマバチ・
セアカゴケグモ・フクロウ・アオバズク・化石など
に関する情報を集めています。詳細は市ホームページ
をご覧ください。(http://www.city.nishio.aichi.
jp/index.cfm/8,50452,91,674.html)

(3) 魚類について川、海を問わず珍しいものを
見かけた場合は市史執筆員が所属する碧南海浜
水族館(〇五六六―四八―三七六一)まで情報を
お寄せください。

(4) 佐久島でフェレット(イタチ科に属する肉食
性の哺乳小動物でペットとして人気)が野生化して
いるとの情報がありました。詳しいことがわかって
いません。ぜひ情報をお寄せください。標本(死骸
等)・写真をさがしています。



担当・お問い合わせ

西尾市教育委員会文化振興課 市史編さん室
〒445-0847 西尾市亀沢町480
西尾市岩瀬文庫内

TEL 0563-56-6660

FAX 0563-56-2787

E-mail shishi@city.nishio.lg.jp



フェレット